

山在峠く玉置辻間の奥駈道巡視・整備（交差登山）

◇実施日… 2021年4月18日（日）晴、強風

◇参加者

【順峰班】梶野照雄、岩本信行、山川自知、豊嶋寛、高橋桂太、

大門健一

6名

【逆峰班】沖崎吉信、児島道夫、濱野兼吉、山川治雄、大江加

予子、畑林清子、生熊千満子、高階美根子、山本

恭正

9名

今年に入り、定例の春季南奥駈道の点検・整備をメインに行事を重ねている。

① 2月7日 浦向道

（17名）

② 2月28日 玉置山く21世紀の森

（17名）

③ 3月14日 行仙宿く東屋岳

（20名）

④ 4月11日 21世紀の森く東屋岳

（10名）

今回の山在峠く玉置辻間の巡視で、行仙宿以南の区間は完了となる。

当日、午前7時30分、本宮の世界遺産熊野本宮館駐車場に15名全員が集合し、沖崎より組分けや注意事項の説明を行う。

本月初参加の山本恭正君は総合研究大学院大学（吹田市）の文化人類学熊野研究生として、この4月1日より新宮市に在住され研究に没頭される由。少しでも協力したいとの思いからお誘いした。

39歳、好青年だ。しっかり頑張っしてほしい。

説明を終えて予定出発時間となり、各班はスタート地点に向けて出発した。

【順峰班】

逆峰班が玉置辻に向けて出発したのを見送り、沖崎車と豊嶋車の2台で山在峠に向かう。昨年は切畑からの登り口を通り過ぎてしまい、少々時間がかかったが、今回はスムーズに山在峠に到着。



山在峠を出発

忘れ物ザックを運ぶ

金剛多和の水場

出発準備をして車の後部ドアを閉めようとするザックが一つ余っている。登山靴とストックもある。見覚えのあるザックは児嶋さんの物だった。すぐに沖崎さんに電話を入れて「児嶋さんのザックや靴が残されている。ザックは合流地点まで運ぶ。靴は大門さんの車に予備の靴があるので、その靴を使って欲しい」と伝えた。どちらも携帯電話の通じる場所だったので、連絡は出来た。

児嶋さんのザックは、荷物が小さかった高橋君が合流地点まで運

んでくださった。



金剛多和

宝篋印塔を過ぎて、熊野川がよく見えるようになった付近で折れた斜木を切除。鉄塔広場で休憩して大黒天神岳、金剛多和と進む。途中、金剛多和の水場を高橋君と二人で確認に降りる。

金剛多和を過ぎたところで、登山道に横たわっている古い倒木を切除する。今回も新しい倒木は皆無で、作業時間が極端に少ないため、昨年よりもペースは速い。

五大尊岳の登りに差し掛かり、あと一時間位かと思っていたが、小さなピークを三つほど上り下りしてようやく五大尊岳山頂に着く。

風が強いので山頂を通り越して、次の鞍部まで降りた。逆峰班の声が聞こえたので、この鞍部で到着を待つ。

5分位で逆峰班が到着し、児嶋さんのザックは無事に持ち主の手に戻った。どうやら沖崎車も玉置辻に行く、と思い違いをしていたようだ。



倒木を切除



五大尊岳



逆峰班と合流



本日の参加者



大森山の登り

鞍部に広がって昼食を摂る。風は強く気温も低い。風屋のアメダスで正午の気温が11℃だったので、五大尊岳付近では5〜6℃だったようだ。

食事を終え、写真を撮ってそれぞれが出発する。

大森山の登りで、岩本さんが後ろから背負子を押し上げてくれるが、バランスがとりにくく、次の一步を踏み出すのが慎重になる。

立ち止まって三度ほど休憩し、大森山に到着、厳しい登りがやっと終わった。

大森山からは下りばかりなので、休まずに歩き玉置辻に到着した。高橋、大門の二人はここからそれぞれ帰宅。岩本、山川、梶野、豊

嶋は玉置川から本宮に帰る。宮井大橋を渡った付近で沖崎さんから電話があり、間もなく本宮着、と返事する。



大森山



水呑宿の標識



玉置辻に到着

本宮で山川さんの小型チェンソーを借りて帰途についた。コロナの感染拡大の影響か、R168の車も少なく、3時間20分で帰ることが出来た。
(記：梶野)

行動タイム

08：02 山在峠↓09：18 大黒天神岳↓09：33 水場↓09：45 金剛多和↓11：22 五大尊岳↓11：26 五大尊岳北 12：10↓12：38 岸の宿↓13：32 大水ノ森↓13：45 大森山↓13：43 水呑宿分岐↓15：07 玉置辻

【逆峰班】

スタート地点の玉置辻に向かう途中、宮井大橋を渡ったあたりで梶野君から電話が入る。児嶋さんのザックと登山靴が積まれたままになっている。ザックは皆で運ぶ、登山靴は大門さんの予備が車に

あるので使って欲しい。ザックは合流地点でわたす。とのことだった。本宮で車乗り換えの時、荷物の移動を失念したようだ。児嶋さんは難聴なので、荷物の移動を含め、伝達事項を確実に伝える必要がある。今回の事を教訓に全員で気を付けていこう。
8時半過ぎに玉置辻に着き、登山準備の後、8時45分歩き始める。

今日は靡看板の設置は無し、この区間は昨年全て設置済みである。倒木の処理も無いと思われるので、設置済み看板のキャップ取り付けと、水呑宿分岐の道標を用意した。

林道から奥駈道に降りるところの古い石柱が、少々傾いていたので、児嶋さんが真つすぐに修整された。石柱に彫られた文字は判読できなかった。帰ってから調べると「寛延八年 右きりはた」と読めるが、左は読めない。おそらく「たけとう」である、と思われる。とあった。因みに寛延八年は一七五五年、江戸時代中期である。

スタートして25分で水呑宿分岐に着く。用意してきたための杭を打ち込み、「右 水呑宿」の標識を取り付けた。標識が減り、荷物が少し軽くなった。

しばらく進み、甲森分岐までの急登が始まる。最近、登りがかなりしんどく感じるようになってきた。2分登って一服、20m位先のあの木まで登ってまた一服、を繰り返して、スタートしてから一時間やっと尾根分岐に着く。

先着の皆さんは休憩を終えかけていた。一服もそこそこに先行者の後を追う。大森山、大水の森を過ぎ、三角点のあるピークでも休憩する。ここへ来ると、何故三角点が北のピークではなく、30mほど低い此の位置なのかの話がでた。なぜかは判らないが、一等三角

点のある玉置山は山頂より北側のピークの方が2 m高い。玉置山への気配りか？遠慮しているのか？

大森山の下りは、植平さんに感謝しながら下る。単独でここまでロープを荷揚げされ、設置も一人で行われた。そのご苦労に頭が下がる思いだ。

岸の宿で靡看板の杭頭にキャップを被せる。サイズはピッタリで気持ちよい。11時20分頃、山川自知君から電話が入る。

「五大尊岳山頂に着いた。今、どのあたりか？」との問い合わせだった。もう手前まで来ている、15分くらいで着く。と伝え先を急ぐ。

ヤッホーとコールすると、ヤッホーと返事があった。その先で登ってきた豊嶋さんと合流した。山頂は風が強く、寒いのでこのすぐ下の鞍部で待っているとのこと。11時40分、五大尊岳北側の鞍部で全員合流し昼食となった。

鞍部とは言え強い風が通り抜けて、冬の寒さの中の昼食となった。児嶋さんの荷物も渡され、車のキーも交換、いつものコジマカフェも開店して香り高い、暖かいコーヒーを頂いた。

30分で昼食休憩を終えて出発。五大尊岳手前の急登もかなり応える。山頂に到着、ここでも杭頭にキャップを被せる。

さあ、急下降が始まる。昨夜の雨でまだ湿っている所が多いので、ゆっくり慎重にと声をかけて下り始める。下るのも厳しい道だ。順峰班も大変だったろう。一時間少々で金剛多和に着く。ヤレヤレだ。ここで役行者前の倒木を山川さんが切除する。後にも先にもチェーンソーの出番はここだけだった。

大黒天神岳を経て、午後3時15分、終点の山在峠に到着した。

昨年も3時15分に到着しているので同タイムとなった。昨年から一歳歳をとったが、脚力に衰えは無いようだ。あーあ、お疲れさんでした。

本宮に戻って順峰班に電話を入れると、3時過ぎに玉置辻に着き、あと15分ほどで本宮に着く。とのことだった。

昨年のように本宮で一時間以上待つことは無く、しばらくして順峰班が戻ってきた。

今日の山行の前日と前々日、新宮ではかなりの降水量があり、今日大気不安定の予報がで、一雨も覚悟していたが雨に降られることは無かった。しかし風が強く、おまけに気温が低いので、3月初旬の様な山行だった。

事故なく、全員無事に下山したことはなりよりだった。

(記：沖崎)

行動タイム

08:45 玉置辻↓09:10 水呑宿分岐↓09:45 大平多山分岐 09:55
↓10:20 大森山↓10:30 大水ノ森 10:35↓11:40 五大尊岳北 12:
10↓13:40 金剛多和 13:50↓14:10 大黒天神岳↓15:15 山在峠